

女人講の石仏・如意輪観音から子安さまへ

I 如意輪観音像石塔の興隆と衰退

(1) 江戸期の如意輪観音像の石仏

1. 墓標仏＝女性の故人の供養塔（如意輪観音像としては、数的には最多か？）
2. 月待の女人講供養塔＝念仏塔・十九夜講の主尊として、二臂・六臂像が江戸前期～中期に最盛期（講銘がなく、仏像供養塔と分類されているもの、建立日が19日の大半も女人講関連か？）
3. 西国三十三観音などの観音霊場本尊写し（北総でまれにみられる）
4. 六観音の一つ（八千代市貞福寺の六観音ほか、六観音石幢・六観音石灯籠に如意輪観音立像）

(2) 初期の如意輪観音像の十九夜塔の像容と特徴

1. 常総での如意輪観音像十九夜塔の初発は、万治元（1658）と2年、利根町布川の線彫り像板碑型。
2. 千葉県内の如意輪観音像十九夜塔の初発は、万治3年（1660）と寛文3年（1663）、山武市内の二臂如意輪観音像浮彫り光背型。
3. 利根川流域の印西市から、寛文5年（1665）以降、六臂（まれに二臂）如意輪観音像浮彫り光背型の十九夜塔が盛興。寛文8年以降、香取市がそれに続く。
4. 寛文10年～延宝8年（1680）、佐倉市・八千代市・成田市をはじめ北総全体に広がり、六臂と二臂如意輪観音像が並立。
5. 天和期（1681～）以降、ほとんどが二臂如意輪観音像となる。

(3) 江戸中期の十九夜塔の特徴

1. ほとんどが二臂、まれに六臂如意輪観音像で、享和（1716～）以降、天衣を翻す二臂如意輪観音像、未敷蓮華を左手に持つ二臂如意輪観音像が出現し、主流となる。
2. 酒々井町での子安神像の石祠・石仏の出現後、18世紀後半より成田市・印西市・栄町などから、子安像の十九夜塔が現れ始める。
3. 二臂如意輪観音像塔から「十九夜」銘文字塔へのきざし

(4) 江戸後期～近現代の十九夜塔の特徴

1. 未敷蓮華を持つ如意輪観音像が多くなる。
2. 幕末以降は文字塔や子安像塔へ。

II 子安信仰石造物の系譜

(1) 子安神の原初的な祀り

- 子授かり・安産・子育ての子安神を祀る石祠（神銘・年銘の残る石祠はまれ）
- ・元禄16年（1703）八千代市上高野子安神社「子安大明神」石祠
 - ・享保17年（1732）八日市場高 宝性院「子安宮」石祠

(2) 「子安神」像の出現

1. 千葉県最古の子安像は、元禄4年（1691）袖ヶ浦市百目木子安神社石祠の「子安大明神」銘の二児慈母神像
2. 北総での初出は、享保18年（1733）酒々井町尾上住吉神社の駒型光背の女神立像
 - ・元文5年（1740）酒々井町柏木新光寺跡墓地 丸彫 二児子安像入りの石祠
 - ・延享元年（1744）酒々井町下岩橋 大仏頂寺 子安像浮彫の石祠
 - ・明和7年（1770）酒々井町伊篠 白幡神社 二児子安像浮彫の石祠
 - ・天明3年（1783）佐倉市大佐倉麻賀多神社 二児子安像浮彫の石祠

(3) 「子安観音」像の成立

1. 子を抱く如来・菩薩・神像風の子安像塔

- ・元文5年（1740）栄町西新田 霊園（慈眼院跡）「子安観音」（大日如来に似た正面向き像）
- ・延享2（1745）銚子市 高神東町 賢徳寺「子安観音講中」（子を抱く唐様装束の女神立像）

2. 子を抱く思惟相の如意輪観音像

- ・宝暦元年（1751）酒々井町尾上 住吉神社「子安大明神」
- ・宝暦4年（1754）酒々井町酒々井朝日神社「子安講中」（二児像）
- ・明和元年（1764）印西市平賀不動堂「念仏講中善女」
- ・明和元年（1764）印西市平賀観音堂「女講中」

- ・安永5年(1776) 酒々井町酒々井新堀(二児像)
- ・天明3年(1783) 成田市飯仲住吉神社(石祠内二児像)

(4) 江戸中期後葉(安永～享和)の多様な子安像塔

- ・安永5年(1776) 千葉市桜木霊園「十九夜講中」(天衣を纏う)
- ・天明6年(1786) 香取市小見川外浜須賀神社(未敷蓮華を持つ)
- ・天明6年(1786) 千葉市且谷町公民館(小さな未敷蓮華を持つ)

(5) 江戸後期(文化期1804～)から子安像塔最盛期への展開

- ・文化3年(1806) 印西市宮内鳥見神社(石祠)
- ・文化8年(1811) 佐倉市角来八幡神社(白衣観音系立像)
- ・天保3年(1832) 銚子市名洗町不動尊(這いあがる子の動的な表現)
- ・天保11年(1840) 八千代市島田台 長唱寺
- ・天保14年(1843) 鎌ヶ谷市鎌ヶ谷八幡神社(母子・天衣の動的表現 達磨を持つ)

(6) 近代～現代の子安像塔

- ・明治33年(1900) 船橋市金堀町竜蔵院(ふくよかな母子像「産めよ増やせよ」の社会背景を反映か? 明治19～昭和9年までの類型は20基)
- ・大正14年(1925) 印西市松虫寺「布佐町/石工 大塚兼吉刻」の銘(細部まで類似したこの像容の子安塔は明治17～昭和60年まで43基あり、布川(我孫子市)の大塚石材の量産品と推定)
- ・令和3年(2021) 八千代市勝田円福寺(最新?の子安塔、平成期に八千代市印西市・白井市・佐倉市で23基の造立)

まとめ

1. 如意輪観音は女人成仏の主尊として女人講の石仏「十九夜塔」として、江戸前中期に興隆、下総地方の総数は2300基(2014 石田年子『房総の石仏』24号)にのぼる。
2. 江戸中期から子安像塔が出現し、如意輪観音像塔にとって代わり、幕末から現在まで女人講石塔の主流となり、その数は下総地方で1039基(2015 蔵由美『印西の歴史』8号)を数える。
3. 子安像塔成立に古来の子安神信仰がベース、如意輪観音系の造像も見られる。

図1 出現・萌芽期の子安像塔



図2 下総地方の女人講石塔の推移

